

各組の提灯の絵図

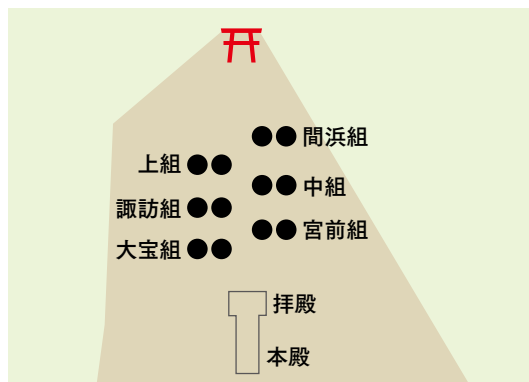
大提灯の絵柄は、古事記・日本書紀の神話や鎌倉時代頃までの有名な逸話を題材にしています。

組	大提灯の絵
上組	景行天皇筑紫御征討図 (けいこうてんのうつくしごせいとうのず) 日本武尊の父・景行天皇が九州の熊襲を平定した時の勇ましい姿。
	日本武尊碓氷峠御眺望図 (やまとたけるのみこうすいとうげごちようぼうのず) 日本武尊が東国の蝦夷を平定した後、碓氷峠(群馬県と長野県の境)で亡き最愛の妻をしのび嘆く姿。
中組	天岩戸図(あまのいわとのず) <二張> ●天照大神が弟・素戔嗚尊の乱暴に怒り天岩戸に隠れてしまったため、神々が困っている様子。 ●天鈿女命の神遊びに神々が笑い転げているので、不審に思った天照大神が戸をわずかに開いたところ、戸の陰に待ちかまえていた手力男神が力いっぱい開けようとしている様子。
	八咫鳥図(やたがらすのず) 神武天皇が大和へ攻め入る時、熊野の山中で道に迷ったところ、八咫鳥が現れ道案内をしている様子。
大宝組	金鶏図(きんしのず) 神武天皇が大和の長髓彦を討とうとした時、金色の鶏が天皇の弓にとまり、敵はその光に目がくらみ戦意を失った様子。
	大塔宮御凱旋図 (だいとうのみやごがいせんどのず) <二張> ●鎌倉時代末期、護良親王が京都に凱旋し、僧兵や武士を前に建武の新政について協議している様子。 ●会議場に集まった武士たちが引立烏帽子・直衣の正装で列座している様子。
諏訪組	静女鎌倉八幡宮舞楽図 <二張> ●源義経の愛妾・静御前が源頼朝に捕らえられ、鶴岡八幡宮で頼朝の面前、義経を恋慕って舞う様子。 ●居並ぶ武将が、静御前の舞を厳しい顔つきで見つめながらも心にしみる歌に聞きほれている様子。
	吉備大臣帰朝祝宴図(きびのだいじんきちようしゅくえんのず) (一色学びの館 原寸大レプリカ)裏面にて詳しく解説
間浜組	邪馬台詩図(やまたいのず) 唐の朝廷が吉備大臣を試すため邪馬台詩を読ませようとしたところ、神の使いの蜘蛛に助けられ読み解くことができた様子。

三河一色諏訪神社へのアクセス



大提灯配置図



西尾市立一色学びの館

開館時間/9:00~19:00

休館日/月曜日(祝日は開館)・年末年始・

特別整理期間(展示室は開館)

〒444-0423 愛知県西尾市一色町一色東前新田8番地

TEL/0563-72-3880 FAX/0563-72-3882



SNSもご覧ください

一色学びの館



2024.8.3.000



西尾市立一色学びの館

Isshiki-Manabi-no-Yakata (library & museum)

まっりの由来

永祿年間(1558～1570)、信濃国(長野県)の諏訪大社から分霊を勧請して祠を立てて祀りました。これが現在の三河一色諏訪神社のはじまりです。

その頃、毎年夏になると海から魔物が現れては、田畑を荒らし人畜に危害を与えていました。困った村人が三河一色諏訪神社の神前に魔鎮めの剣を供え、大きなかがり火を焚いて魔物退散を祈願したところ、現れなくなったといいます。そのため、毎年祭りの神事として必ずかがり火を焚くようになりました。これが大提灯まっりの起源といわれています。

このかがり火を焚く神事は100年ほど続きましたが、かがり火は不便だからというので提灯を作り、これに献灯するようになりました。

寛文年間(1661～1672)、当時の提灯は竹竿に吊るす程度のものであったと考えられますが、「こんな小さな提灯ではまた魔物がやって来るかもしれない」と思った村人は次第に提灯を大きくしていきます。元文・寛保年間(1736～1743)になると柱を立て、その間に提灯を吊るすようになりました。そのうち各組は提灯の大きさや絵を競い合うようになり、文化・文政年間(1804～1829)には二本柱から現在の三本柱になりました。提灯の骨もほとんどの組が竹から檜の杵に変わり、現在に至っています。



常設展示の大提灯

間浜組大提灯

『三河一色大提灯まつり』は、毎年8月の第4土・日*に三河一色諏訪神社で行われます。夏の夜空に、幻想的な時代絵巻の6組12張の大提灯(上組・中組・大宝組・宮前組・諏訪組・間浜組)が浮かびあがります。当館では、その中で最も大きい『間浜組』の提灯を原寸大レプリカでいつでもご覧いただけます。

※平成30年までは毎年8月26・27日に行われていました。



提灯の大きさ	長さ10m／直径5.6m／重さ1t
提灯の文字	敬聖澤既睦
読み方	聖澤の既に睦たるを敬え
意味	天皇の恩恵はもうすでに人民に及んで人々は仲睦まじい。ありがたいことと敬いなさい。
提灯の材料	檜(ひのき)の杵(まさ)と美濃和紙
ろうそくの大きさ	高さ1.2m／重さ80kg

大提灯6組12張と柱組一式は、昭和44年に愛知県の有形民俗文化財に指定されました。

3階展示



各組の大提灯の絵柄について解説をしています。また、この階からは大提灯上部の屋根形の覆いも間近に見ることができます。上から見る大提灯は一味違って格別です。



間浜組大提灯の絵図

『吉備大臣帰朝祝宴の図』

奈良時代の学者で政治家としても知られる吉備真備(695～775)が描かれています。19年間の唐の留学を終え朝廷で帰国の報告をするとともに、献上品目録を読んでいるところです。一方祝宴では、唐の衣装を身に着け雅楽(唐代の俗楽)に舞をともし舞楽が演じられています。

